

日本プロゴルフ選手権大会2025優勝

市出身プロゴルファー清水大成選手から寄付



▲同大会優勝時の清水選手(写真提供：PGA)

市出身プロゴルファーの清水大成選手が、5月の同大会で念願のツアー初優勝を果たしました。

同大会の優勝賞品である米150kgを市の施設に寄付したいとの意向があり、市内の認可保育所などで活用することになりました。国内外でツアー中の清水選手に代わり、9月1日に代理人から目録を受け取った井上市長は「支援に感謝します。ますますの活躍を期待しています」とお礼を述べました。

企業版ふるさと納税で100万円の寄付

(株)リオスへ感謝状を贈呈



▲高山社長(右)と市長

(株)リオスから、企業版ふるさと納税として100万円の寄付を受けたことに伴い、8月29日、市役所で感謝状贈呈式を行いました。

同社からは、令和5年度にも同額の寄付を受けています。高山幸治代表取締役社長は「ふるさと春日市に少しでも貢献したい」と述べ、井上市長は「継続して市のまちづくりに協力いただき大変ありがたい。大切に活用します」と感謝を述べました。

春日・大野城・那珂川消防組合消防本部

第53回全国消防救助技術大会で入賞



▲左から持丸さん、市長、佐藤さん

9月10日、同本部の持丸陽平さん、佐藤優都さんらが井上市長を訪問し、8月30日に兵庫県で開催された同大会で「ロープ応用登はん」の種目に県代表として出場し、入賞したことを報告しました。救助活動に関する高い技術と安全性が評価されたものです。2人は「市民の安全安心を守るため、この経験を今後の業務に生かし、市民からより愛される消防本部を目指します」と力強く語りました。

ますますお元気で

100歳の高齢者を市長が訪問



▲市長から祝い状を贈られる今川さん

9月4日、井上市長が今年度100歳を迎える今川浦子さんを訪問し、内閣総理大臣、県知事、市からの各祝い状などを手渡しました。

同席した家族によると、今川さんは小さい頃から健康が自慢で、学校を一度も休んだことがないそうです。

今年度中に100歳を迎える市民は41人(8月末時点)。ますますのご長寿をお祈りします。

古代文化を知って、触れて、楽しむ

第13回弥生の里かすが奴国の丘フェスタ

9月27日、奴国の丘歴史資料館と奴国の丘歴史公園で、同フェスタが開催され、子どもから高齢者まで、約2,400人が来場しました。

毎年恒例のまがたま勾玉作り、土鈴作り、鋳物作り、火起こしなどの体験広場は、子どもたちに大人気。クイズに答えながら遺跡などを巡る奴国ラリー、資料館バックヤードツアーも盛況でした。今年は初めて、水城跡VR(バーチャルリアリティ)体験を実施。最新技術で古代の様子をじかに見ているような体験ができました。

また、ジュニアガイドや中学生ボランティア、福岡女学院大学・短期大学の学生も運営や司会などで活躍し、会場を盛り上げました。

午後からの「風の丘コンサート」は、和太鼓オトOTO・GATARIの迫力ある響きで幕開け。続いて、2Bassツープベースが柔らかく深みのあるチェロとコントラバスの演奏を披露。最後は、同フェスタのテーマ曲「風紋」の作曲者である和田名保子さんによるオカリナ演奏が行われ、美しい音色で観客を魅了しました。



▲火起こし、上手にできるかな



▲本物の土器に触ったよ(バックヤードツアー)

★表紙関連

幻想的な光に包まれる

第49回春日奴国あんどん祭り

10月4日、5日、県営春日公園で春日奴国あんどん祭りが開催されました。この祭りは、昭和52年に市制5周年を記念して開催された「春日市民祭り」に由来するもの。昔の暮らしの光であったあんどんをいにしえびと灯して古人をしのぶとともに、市民の心に刻まれるふるさとの祭りとなることを願い、春日市民祭り振興会の主催で開催されています。

4日は午後の雨により、あんどん点灯が中止となりましたが、噴水のライトアップやオープニングコンサートなどが行われました。

天気が回復した5日は、朝から市民売店などが開店。縁日広場では、輪投げやヨーヨー釣りなどが行われ、多くの子どもたちでにぎわいました。また、午後からは市民ライブも開演し、歌や演奏で会場を盛り上げました。そして、日没とともにあんどんが点灯。市民が作成した竹あんどん、紙あんどんなど、約5,000個のあんどんに明かりがともり、光と噴水のイルミネーションと相まって、会場は幻想的な雰囲気包まれました。



▲キラキラと輝く河状あんどん



▲虹色の光でライトアップされた噴水